

上演 10

2023年7月31日5校目

中国 ブロック（島根県）

島根県立三刀屋高等学校

「ローカル線に乗って」

第47回全国高等学校総合文化祭演劇部門

第69回全国高等学校演劇大会

講評文

生徒講評委員会 担当委員

純心女子高等学校（長崎県）

大平 はるか

この作品は車掌から誘われた観客の私達と女子高校生「令和」が島根県にあるローカル線に乗り、昭和、平成を生きた人達と出会う。嬉しかった出来事や悲しい出来事を聞いたり、過去を見たりしていく関わりを通し、豊かさについて考えていくお話だった。

スマホなどの便利な機械が普及する今、豊かと聞くと最新技術に目が向きがちだが、電車を待っているときや移動中など多くの時間をスマホに使い、自分の世界に入り込んで周りをシャットアウトしている人が多くいる。物で溢れている現代は数的に見ると豊かで便利かもしれない。しかし、便利さを追求するあまり人の心はどうなってしまうのだろうか。貧しくなってしまうのではないかと考えさせられた。

さらに、便利さや流行が影響し、需要がなくなったら潰れてしまうことを実感し、悲しくなった。同時にそういう世の中だからこそ、ふるさとを大事にしたいと思った。人と人の繋がりはもちろん、紙テープのシーンでは実際に見送られることを体験した委員もおり、自分と地域との繋がりについても意見を深めることができた。お店や公園が消えていくようにローカル線もいつかはなくなってしまうかもしれない。ラストシーンでプロジェクターの光を人と柵に投射することで、車窓の美しい景色を、乗り合わせている乗客と同じ目線で私たち観客も見ることができた。

先代の方々が築き上げてくれたからこそ今があることに感謝しなければならない。昭和を生きた方々が植え、育て、守ってくれたことで今も残っている桜や当時の代表歌ともいえる「上を向いて歩こう」は現代の人が下を向きがちな時に心を明るくしてくれる存在として現代にも受け継がれている。「あなたたちの時代はどうですか？」という台詞に対して、私たちは「ごめんなさい」という気持ちでいっぱいだ。

最初から最後まで優しさに溢れており、温かさや生きることの素晴らしさを感じさせてくれる作品だった。

